（表中敬称略）

会議名	ＲＥＩＭ産学連携コンソーシアム合同会議（令和２年度第２回）		
日　時	令和２年１２月１７日（木）9:30～11:30		
場　所	キャンパスプラザ京都　第３会議室及びオンライン		
出席者（計 10 名）			
役職等	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	理事・技師長	黒谷　努
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	部長	先本　勉
連携企業	西日本高速道路株式会社	技術研修担当課長（茨木技術研修センター長）	福冨　章
連携企業	一般社団法人建設コンサルタンツ協会近畿支部	参与（建コン協近畿）	田底　成智
連携校	福島工業高等専門学校	特命助教	浅野　貴元
代表校	舞鶴工業高等専門学校	教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	玉田　和也
代表校	舞鶴工業高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナンス教育副センター長	毛利　聡
代表校	舞鶴工業高等専門学校	特命准教授	嶋田　知子
代表校	舞鶴工業高等専門学校	特命助教	掛　園恵
オンライン出席者（計 26 名）			
役職等	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
連携企業	一般社団法人近畿建設協会	チーフ	小室　篤史
連携企業	西日本高速道路株式会社	関西支社　構造担当部長	佐溝　純一
連携校	福島工業高等専門学校	校長	山下　治
連携校	福島工業高等専門学校	准教授	江本　久雄
連携校	長岡工業高等専門学校	校長	原田　信弘
連携校	長岡工業高等専門学校	教授	井林　康
連携校	長岡工業高等専門学校	准教授	宮嵜　靖大
連携校	長岡工業高等専門学校	准教授	陽田　修
連携校	長岡工業高等専門学校	助教	白井　一義
連携校	長岡工業高等専門学校	特命助教	丸山　聡
連携校	福井工業高等専門学校	校長	田村　隆弘
連携校	福井工業高等専門学校	教授	辻野　和彦
連携校	福井工業高等専門学校	嘱託教授	阿部　孝弘
連携校	福井工業高等専門学校	特命助教	宮川　清剛
代表校	舞鶴工業高等専門学校	校長	内海　康雄
代表校	舞鶴工業高等専門学校	事務部長兼総務課長	佐良　俊之
代表校	舞鶴工業高等専門学校	総務係長	芦田　康弘

連携校	香川高等専門学校	校長	安蘇　芳雄
役職等	所属（学校等・部門・部署）	役職	氏名
連携校	香川高等専門学校	准教授・社会基盤メンテナンス教育センター長	林　和彦
連携校	香川高等専門学校	助教	長谷川　雄基
連携校	香川高等専門学校	助教・社会基盤メンテナンス教育センター副センター長	入江　正樹
連携校	放送大学学園	副学長	池田　龍彦
連携校	放送大学学園	オンライン教育センター長・教授	近藤　智嗣
連携校	放送大学学園	課長補佐，社会連携コーディネーター	樋口　徹
協力校	国立大学法人長岡技術科学大学	教授，学長補佐（高専連携担当）	武田　雅敏
協力校	国立大学法人長岡技術科学大学	教授	岩崎　英治

議事次第

１．議長挨拶　　舞鶴工業高等専門学校 校長　内海 康雄

・ｉＭｅｃフォーラム 2020 リーフレット　・・・・・　資料 1

２．リカレント教育プログラムの開発状況

（１）進捗状況について（報告）

・2020 年度リカレント教育プログラム開発状況　・・・・・　資料 2-1

（２）実証講座と検証結果について（報告）

・専門特修講座【橋梁長寿命化対策】　・・・・・　資料 2-2-1

・専門特修講座【構造物の詳細調査】　・・・・・　資料 2-2-2

・専門特修講座【施工技術と施工管理】　・・・・・　資料 2-2-3

（３）今後の開発について（審議）

・専門特修講座【建設 ICT】　・・・・・　資料 2-3-1

・橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】　・・・・・　資料 2-3-2

３．実務家教員育成研修プログラムの開発状況

（１）進捗状況について（報告）

・2020 年度実務家教員育成研修プログラム開発状況　・・・・・　資料 3-1

（２）開発計画の変更等について（審議）

・実務家教員育成研修プログラム開発計画（修正案）　・・・・・　資料 3-2

４．人材育成・活用システム設計部会の体制構築

・人材育成・活用システム設計部会の委員推薦依頼　　・・・・・　資料４

５．意見交換

・ＫＯＳＥＮ－ＲＥＩＭ事業の広報について　　・・・・・　資料５

６．その他（今後の予定，事務連絡等）

・令和２年１２月１７日（木）13:30～17:00
　　ｉＭｅｃフォーラム 2020　@オンライン（会場：キャンパスプラザ京都第２講義室）
・令和３年１月２３日～２４日（土・日）　実証講座②【構造物の詳細調査】　@舞鶴高専
・令和３年２月６日～７日（土・日）　実証講座②【橋梁長寿命化対策】　@舞鶴高専
・令和３年２月１３日～１４日（土・日）　実証講座②【施工技術と施工管理】@舞鶴高専
・令和３年３月頃
　　外部評価：社会基盤メンテナンス技術レベル検討委員会

以上

写真１　舞鶴高専　内海校長挨拶

写真２　会場風景

写真３　会場風景

写真４　会場風景

ＲＥＩＭ産学連携コンソーシアム合同会議（第２回）議事録

日　時　令和２年 12 月 17 日（木）9:30～11:30
場　所　キャンパスプラザ京都　第３会議室及びオンライン
（表中敬称略）

１．議長挨拶　　舞鶴工業高等専門学校 校長　内海 康雄

２．リカレント教育プログラムの開発状況

（１）進捗状況について（報告）

（２）実証講座と検証結果について（報告）

・専門特修講座【橋梁長寿命化対策】,【構造物の詳細調査】【施工技術と施工管理】

✓３つの専門特修講座　第１回実証講座終了，第２回実証講座に向けて検証結果を踏まえてコンテンツの改良を進めている。

✓第２回実証講座では，発注者視点での検証を行うため，内部検証者（高専関係）に加え，外部検証者（近畿建設協会）を検証に加えることとする。

（３）今後の開発について（審議）

・専門特修講座【建設 ICT】

✓建設ＩＣＴは，コンテンツ作成を進め，実証講座は来年度上半期予定する。

✓建設ＩＣＴの今後の開発について了承された。

・橋梁診断技術者認定講座【橋梁診断】

✓橋梁診断技術者認定講座は，来年度，コンテンツ作成～実証講座を実施予定とする。

✓本カリキュラムの開発にあたり，橋梁調査会等へのヒアリングを実施する。

✓「橋梁診断技術者」について，2021 年度国交省登録資格申請を目指す。

✓橋梁診断技術者認定講座の今後の開発について了承された。

３．実務家教員育成研修プログラムの開発状況

（１）進捗状況について（報告）

✓社会情報大学院大学よりコンテンツ提供を受け，連携して開発を進める。

（２）開発計画の変更等について（審議）

✓コロナ禍により，オンライン対応可能なコンテンツ作成を念頭に開発を進める。

✓今後の開発スケジュールを変更，公募および開講時期を，2 か月ずらすことに関して了承いただいた。

４．人材育成・活用システム設計部会の体制構築

✓当該部会に対し，各所属企業・団体から１名以上の委員を推薦する。現時点でＲＥＩＭコンソーシアム会議メンバーでない方も推薦いただける。5 高専からの委員推薦対象者は常勤教員と

する。専任教員は，各部会の事務局として参画する。

✓推薦方法等は，後日，事務局より連絡する。

５．意見交換：ＫＯＳＥＮ－ＲＥＩＭ事業の広報について

✓本事業責任者である玉田委員をコーディネーターとして，意見交換を行った。

✓先日，12/15 に東北大学をはじめ事業採択された４拠点の会議があり，実務家教員の認知度や地位の向上が必要という議論をした。実務家教員の育成では，実務経験・実務能力を伝える技術の修得を最終目的としているが，これをどう広報し，実務家教員候補を発掘していくか，また，リカレント教育プログラムについては，受講生からいいねという意見をいただいているが，そのいいねをどう広げていくか悩んでいる。忌憚ない意見交換をいただきたい。（玉田委員）

論点：広報する対象，どのような手段・メディアが有効か？人脈があるか？

✓企業等に実務家教員の話をすると，ベテラン技術者の再就職先と捉えられがちで，高専等で活躍してもらうという文言に退職後にそういった就職先があるというイメージを持たれる。技術継承の担い手を育成すると説明しても，一般論としては良いが人を出すことには消極的で，あまりよい回答が得られない状況である。（林委員）

✓難しい問題だからこそ，みんなで意見を出していきたい。（玉田委員）

✓土木技術者として中堅からベテランになっていくには対話力が大事だが，必ずしも必要な努力がなされていない。具体的にこういう力が必要だと提示し，そこに対するスキルアップを全面に出したキャンペーンはどうか。（林委員）

✓誰を対象にするかがポイントである。JR や NEXCO は，社内に人材育成システムがある。一方で，中堅の会社や人材育成に投資はできていない会社を対象に訴えかけると良いと感じている。（玉田委員）

✓どのようなメディアが有効か，ご意見をいただきたい。（玉田委員）

✓国交省や県など，若手を育成するための講習会を開催しているので，それと連携するのはどうか。全体の１コマでも２コマでも活用してもらい，最終的にはこのプログラムに引き込んでいく。講師をしてくださいと働きかける際，KOSEN-REIM における人材育成の仕組みについて PR したらどうでしょうか？（田村委員）

✓具体的な人脈でいくと，日刊建設工業新聞等の専門紙がある。建設コンサルタンツ協会では，インタビューにこたえるなどしている。日刊建設工業新聞は，企画の持ち込みにはウェルカムの姿勢である。例えば，内海校長がインタビューに応えるなど。業界の人間は専門紙をよく読んでいる。インパクトが高いのは，日経コンストラクションにインタビューを掲載してもらうこと。費用はかかるが，企画内容なども含め交渉次第だと思う。（田底委員）

✓コストをかけてでも拡げていくのはいいと思う。（玉田委員）

✓日経コンストラクションにも知っている記者がいる。先生方も個人的に知っている人がいれば，声をかけて繋がってみてはどうでしょうか。（田村委員）

✓実務家教員について，一つの講座について講師は何人かいるのか？１人が全ての講義を受け持つのか？実務家教員を募集したときに，様々な専門の分野があるので，全てを一人で賄うことは負担になると思われる。どのように考えているか？（先本委員）

✓専門特修講座では，内容が専門的であることから，分野に強みのある方にそれぞれ担当いただ

き，講師3～4人で分担した。少なくとも，鋼・コンクリートは講師を分けていた。基礎編【橋梁点検】をイメージして，一人が全て教えたほうが良いのでは，とお話ししたことがあるが，自らの経験を語り伝えることと，教科書の内容を教えることでは，伝わり方が違う。やはり実務家教員の専門分野を生かした教育をやっていく必要があると思う。以前，建設コンサルタンツ協会の廣瀬委員からは，鋼とコンクリートは分けていないとお話しいただいたが，実際に橋梁のメンテナンスを教える場合，どういった分け方をするとお受けいただきやすいか？（嶋田委員）

✓実際には，コンクリートと鋼は分けたほうが，専門分野的にも良いと考える。PCだけ，という人もいる。（田底委員）

✓公募をする時に，実務家教員に応募したいが，全ては教えきれない，という人も出てくる。公募の際は，専門性を分けて募集してはどうか。（先本委員）

✓カリキュラムがまだ具体化していないが，最終的には教える技術を教えるため，専門とする分野は問わないイメージである。例えば，トンネルの熟練技術者が，どう自分の経験を整理して人に伝えることができるか，そういったことも教えていく。ただし，教育実習は，ｉＭｅｃが実施している橋の維持管理のフィールドしかないため，そこのズレをどう解消するかは検討が必要である。橋をやっている人しか実務家教員になれないものではないと考えている。ただし，トンネルの専門家が実務家教員になられても，現時点ではｉＭｅｃにトンネルの講習会は無く活躍いただく場がない。今後，長期計画では，地盤と斜面，土砂災害やトンネルもやっていく予定である。（玉田委員）

✓建築の立場からの意見だが，企業規模，売上，人数が一定以上ないと人材育成に余力が割けないと思われる。講習会や学会誌に，橋梁に関して少し絞って広告をしてはどうか。（内海委員長）

✓広報・広告の為のコストは課題。企業規模を調べて，ターゲットを具体化して，届くような手段・メディアに絞って広報・広告するのもいいと思う。（玉田委員）

✓広報の話について，高専機構時代から，日刊工業新聞の論説委員の山本さんが高専を応援してくれている。一度，話してみるのはどうだろうか。日刊工業新聞の会社としてのサービスとして，読者ニュース便をやっている。購読者の権利として，自分たちが発信したい内容を，提案して掲載いただける。玉田先生，内海校長と，山本論説委員のお話の場を設けてはどうだろうか。（樋口委員：放送大学）

✓具体的に動きたいと思う。（玉田委員）

✓実務家教員について，社内および点検を担当しているグループ会社と話してみた。始まってない事業のため，実務家教員がどのような役割，働きをするか，頻度など具体的に説明できていない。グループ会社もイメージが付きにくいようである。まずは来年度から始まる実証講座で，具体的なイメージがついて来れば、実務家教員に挑戦する人も出てくるかと思う。リカレント教育について，研修センターに来られる方，県の外郭団体の方，市町村などの研修を担当されている方，非常に熱心にされているところに拡げるのは，有効ではないかと思う。（福冨委員）

✓時間が来ました。具体的な意見もあったので，年明けから動いていきたいと思う。（玉田委員）

６．その他（今後の予定，事務連絡等）

✓資料のとおり

以上